

# 中国地方鉄道協会の取り組み

寺田 春實

中国地方鉄道協会(専務理事)



てらだ はるみ

## はじめに

中国地方鉄道協会は、中国地方の5県(岡山県、鳥取県、広島県、島根県、山口県)において鉄道・軌道事業を営業者により組織する団体です。

当協会では、「技術委員会」を設置し、技術委員会のもとに「運転保安専門部会」などを置いて、鉄軌道を取り巻く様々な情報の共有化や直面する課題の検討などを行い、同時に事業者間の連携や親睦を図っています。

本稿では、そのような当協会の活動や取り組みについてご紹介します。

## 会員の現状

当協会の会員となっている鉄軌道事業者は、現在、9事業者です(表1)。

各会員が鉄道事業免許あるいは軌道事業特許を取得した年は、広島電鉄株式会社(図1)が最も古く明治40年、その後、岡山電気軌道株式会社が明治43年、一畑電車株式会社が明治44年、水島臨海鉄道株式会社が昭和23年と続き、昭和60年代に入って61年に智頭急行株式会社、62年に錦川鉄道株式会社、若桜鉄道株式会社及び井原鉄道株式会社が、63年には広島高速交通株式会社がそれぞれ取得しています。

会員を事業別に見てみますと、鉄道事業者は広島県に2

社、鳥取県に2社、島根県に1社、岡山県に2社、山口県に1社の計8事業者、軌道事業者は広島県に2社、岡山県に1社の計3事業者です。

会員の平均営業キロ程は29.5キロで、最短は岡山電気軌道株式会社の4.7キロと全国的にも短距離の営業区間で、最長は鳥取県から岡山県を経由して兵庫県に至る智頭急行株式会社の56.1キロです。

会員を動力別に見てみますと、電気の事業者は広島県の2社、島根県の1社、岡山県の1社の計4事業者、残りの5事業者は内燃です。

また、線路の単線、複線別で見ると複線での営業は広島県の2社と岡山県の1社の3事業者であり、残りの6事業者は単線の営業となっています。

## 技術委員会の取り組み

当協会では、会員間における技術的な課題の検討を目的として技術委員会を設置しています。技術委員会は、毎年一回総会を開催しており、平成18年の開催で58回目の開催となりました。過去に多くの問題点の解決や鉄道技術関係職員のレベル向上等の実績があり、昭和20年代から続いた伝統と永い歴史のある委員会です。

現在の委員長は、広島電鉄株式会社常務取締役の中尾正俊氏が務め、中尾委員長を中心に全会員各社が構成員と

なっており、鉄道・軌道施設や車両の保守・維持管理などハード面を中心とした課題や問題点の検討・研究に取り組んでいます。

委員会の議題は、各社の抱える技術的懸案事項が大きな項目であり、各社から事前に提出された問題点について全会員が検討するとともに、平成16年からは、中尾委員長の発案により、財団法人鉄道総合技術研

表1 中国地方鉄道協会会員・事業者の現状

(順不同)

事業者	本社所在地	事業内容(営業キロ)	動力別	単複別
広島電鉄株式会社	広島県広島市	軌道(19.0)・鉄道(16.1)	電気	複
広島高速交通株式会社	広島県広島市	軌道(18.1)・鉄道(0.3)	電気	複
智頭急行株式会社	鳥取県鳥取市	鉄道(56.1)	内燃	単
若桜鉄道株式会社	鳥取県八頭郡	鉄道(19.2)	内燃	単
一畑電車株式会社	島根県出雲市	鉄道(42.2)	電気	単
岡山電気軌道株式会社	岡山県岡山市	軌道(4.7)	電気	複
水島臨海鉄道株式会社	岡山県倉敷市	鉄道(15.6)	内燃	単
井原鉄道株式会社	岡山県井原市	鉄道(41.7)	内燃	単
錦川鉄道株式会社	山口県岩国市	鉄道(32.7)	内燃	単



図1 広島電鉄の国産超低床車両グリーンムーバーmax



図2 大雨による土砂崩落の復旧状況(一畑電車)

究所鉄道技術推進センターと連携し、全国の地方鉄道協会において初めて、推進センターより、専門的な知識と豊富な経験を有するレールアドバイザーの方々や推進センターの職員の方々を総会にお招きして会議に参画していただくとともに、的確な指導や助言をいただき、その席上でも活発な意見交換を行っています。

また、委員会での報告内容は、各社の昨年度の保守整備実施報告と本年度の施設整備実施計画について、保安度の向上や輸送力の向上、サービス改善等に区分して報告するとともに、保守管理の改善事例については、パワーポイントを使用して発表する等の情報の共有化を図るなど、施設の維持と保安度の向上に積極的に取り組んでいます。

昨年度の第58回会議の概要についてご紹介します。

### (1) 日程

平成18年11月16日(木)～17日(金)

### (2) 参加者

来賓 中国運輸局鉄道部 村田鉄道部長、宮崎土木係長  
 鉄道総合技術研究所 鉄道技術推進センター 小山内レールアドバイザー、平林レールアドバイザー、鈴木センター長、外山主査  
 日本線路技術 栗田課長

会員各社 中尾委員長ほか9事業者25名、協会1名

### (3) 概要

- ・講演 「踏切道改良促進法の改正概要と東南海・南海地震対策について」(中国運輸局村田鉄道部長)
- ・総会議事 昨年度の事業報告、本年度の事業計画等を諮り承認された。
- ・意見交換 各社から寄せられた技術的懸案事項について、レールアドバイザーや推進センターより、専門知識や経験に基づく解説および文献に基づくデータの提供などを通じ助言、指導をいただき、予定時間を延長して意見交換が行われた。
- ・視察 一畑電車佐藤次長のご案内により、起点の松江

しんじ湖温泉駅、5駅目の松江フォーゲルパーク駅および鳥と花の楽園「松江フォーゲルパーク」を視察。また、平成18年7月17日に発生した土砂崩落に伴う列車脱線事故により、数日間の運休に至った長江駅付近の崩落現場(図2)を視察した後、本社の所在する雲州平田駅で駅施設の視察を行った。

## 運転保安専門部会の取り組み

技術委員会には、下部組織として運転等のソフト面を主に検討・研究する運転保安専門部会を設けています。当専門部会は、広島電鉄株式会社電車輸送企画グループマネージャー森川謙二部会長を中心に、会員各社が構成員となり、毎年、広島市内で開催しており、運転事故やインシデントの防止について取り組んでいます。

部会では、中国運輸局から前年度の事故やインシデントの発生状況と事故原因や事故防止対策の説明を伺い、社内の運転事故防止対策や社内教育の貴重な資料として参考にしています。

また、各社の事故防止実施項目や運転士の教育の実態と問題点について各社から報告、発表していただき、活発な意見交換を行っています。

## おわりに

当協会では、所属する会員各社の事業内容や事業規模等は多少異なっているものの、会員共通の問題点の抽出や技術的な課題について、鉄道技術推進センター等専門家のご意見やご指導を得ながら問題点の解決に努力しています。

また、法改正等に伴う制度の改正情報やその内容、事故情報等について、会員各社に対し、速やかに情報提供するなど、会員の事業発展のため情報の収集とその提供に努めています。

今後とも、会員各社の課題解決や情報共有化に向けて、力を注いでいきたいと考えています。RRR